

V. 園路計画

計画地の利活用から舗装が必要とされる場所は、主動線である。その他の園路は自然環境や景観等に配慮して原則として現況のままとし、今後必要に応じて、既存の園路を活用しながら整備する。

1. 主動線の舗装

計画地の利活用から舗装が必要とされる場所は、主動線のみである。その利用形態は、歩行者や車椅子の利用者に自然散策や保安全管理など多様な用途が想定される。また、計画地の特性上、施工時に自然環境への負荷を与えないことがポイントであることから、人力による施工が可能な簡易な素材が適切である。そこで、上記の条件に配慮し比較検討を行なった結果、土舗装を採用した。

表. V-1-1 舗装材比較表

舗装材	特徴	景観・環境への影響	施工性	メンテナンス	車椅子	経済性	評価
土舗装	既存の土に改良土混合して締め固めたもの 固化材としては、セメント・石灰等がある	既存の土を利用することにより自然景観になじむ	容易	不陸整正と転圧が必要	比較的スムーズ	6000~7000 円/m ²	景観・環境への影響と車椅子への対応が評価できる
		○	○	△	○	×	採用
ダスト舗装	石灰岩ダスト等で締め固めたもの 適応可能な勾配は3~5%以内	舗装面が柔らかく、比較的的自然景観になじみやすい	容易	雨水により柔らかくなる	雨天時に滑りやすい	1000 円/m ²	
		○	○	×	△	○	
碎石舗装	碎石を敷き均しし、転圧した舗装	粒径が大きい碎石は足音がするため野鳥観察に不利	容易	常時、不陸整正と転圧が必要	がたつき、振動が大きい	1500 円/m ²	
		△	○	×	×	△	
チップ舗装	粉碎した木チップで敷き均した舗装	自然素材で影響が少ない。音が出ないため野鳥観察が可能	容易	流出や腐食によりチップが減るため補充と敷き均しが必要	タイヤが食い込む	採取場所によってばらつきがある	
		△	○	△	×	×	

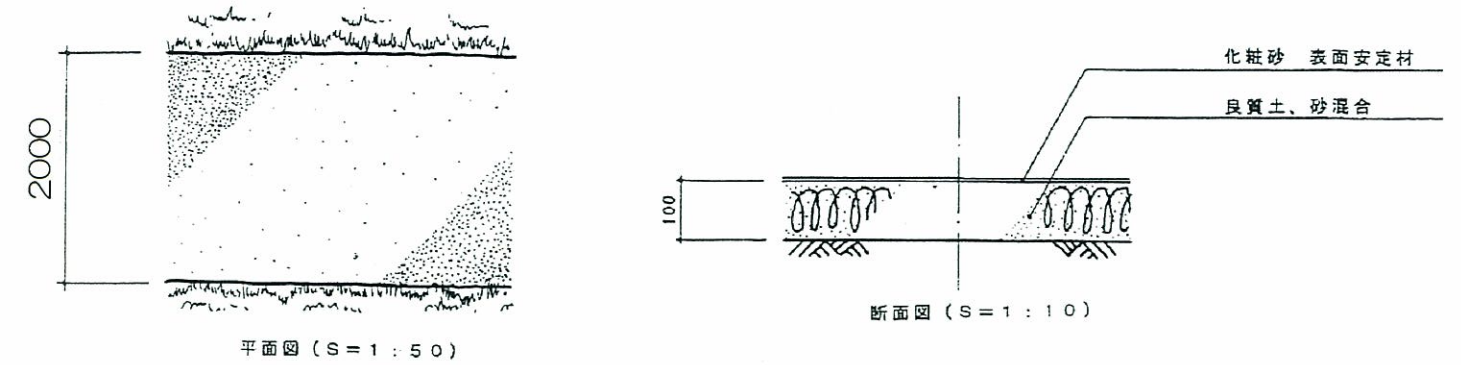


図. V-1-1 土舗装標準断面図

斜面は既存の畦道の斜面勾配に合わせて1:1とする。
なお、乾燥しやすい場所であることから、ザリガニ、モグラなどが穴をあげるため、粘土を塗り上げる畦道の管理が必要な部分である。

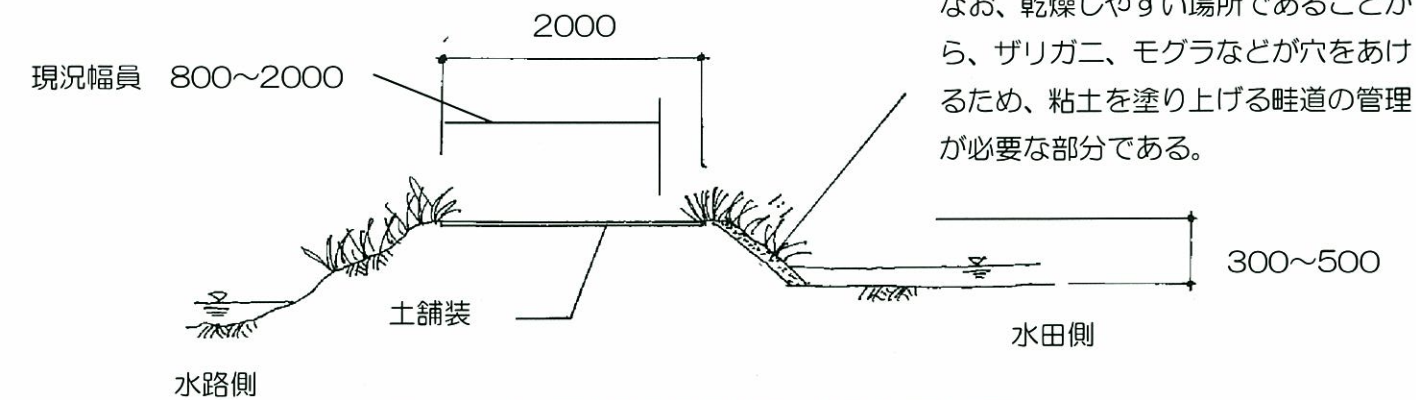


図. V-1-2 主動線の幅員が狭い場所の標準断面

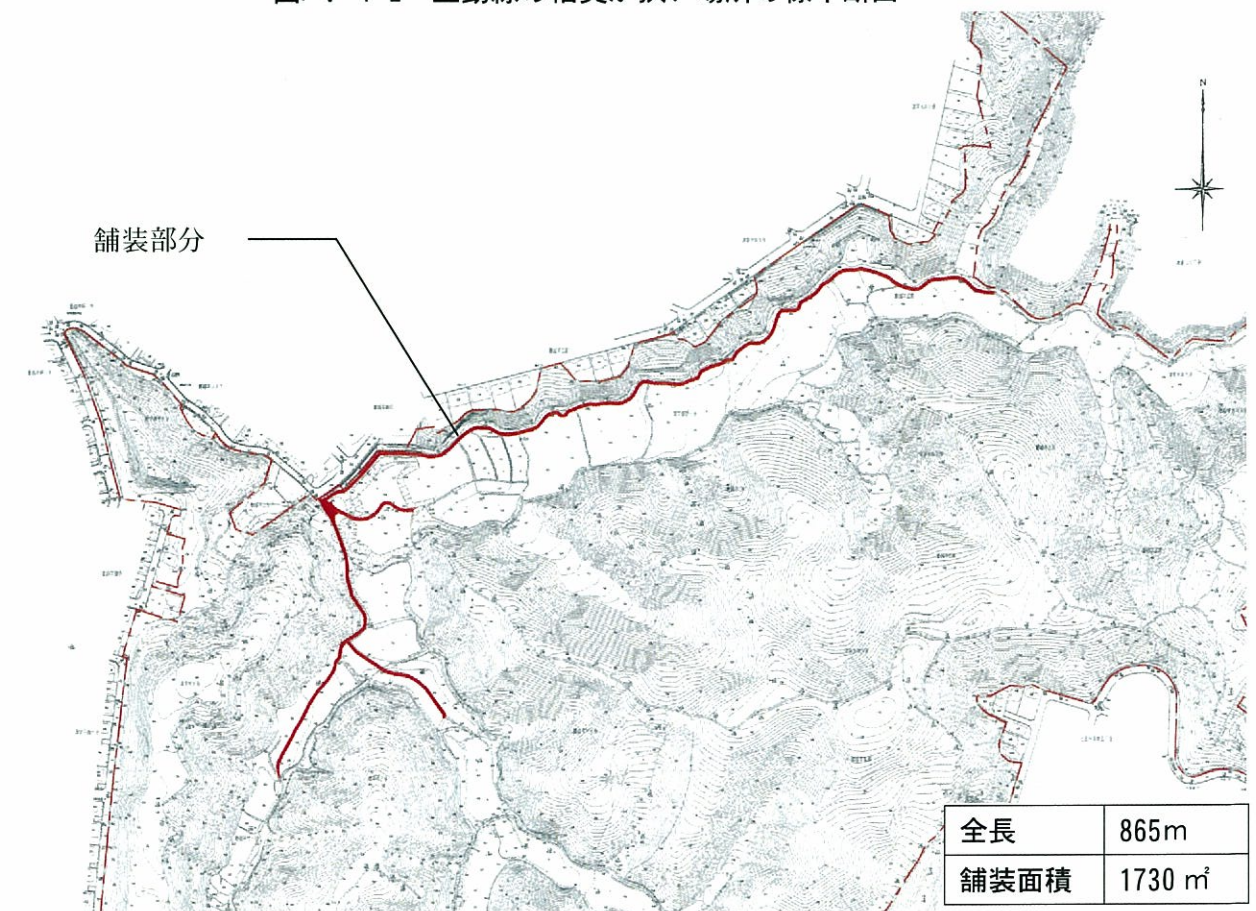


図. V-1-3 土舗装部分平面図